

当院の催吐リスクに応じた制吐療法の基本薬剤

<高度催吐性リスク> 90%を超える患者に発現する
①アプレピタントCap 125mg (day1)、80mg (day2-3)
②パロノセトロン点滴静注0.75mg (day1)
③デキサート注 9.9mg (day1)
④デカドロン錠4mg 2錠1× or デキサート注6.6mg (day2-4)

<中等度催吐性リスク；標準> 30～90%の患者に発現する
①グラニセトロン静注液1mg (day1)
②デキサート注 9.9mg (day1)
③デカドロン錠4mg 2錠1× (day2-3)

<中等度催吐性リスク；特定薬剤> 30～90%の患者に発現する
※特定薬剤：カルボプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサート
①アプレピタントCap 125mg (day1)、80mg (day2-3)
②パロノセトロン点滴静注0.75mg (day1) or グラニセトロン静注液1mg (day1)
③デキサート注 4.95mg (day1)
④デカドロン錠4mg 1錠1× (day2-3；省略可)

<軽度催吐性リスク> 10～30%の患者に発現する
①デキサート注 6.6mg (day1)

<最小度催吐性リスク> 発現しても10%未満である
※予防的な制吐療法は実施しない

乳癌外来レジメン NK1受容体拮抗薬
アロカリス注を使用する